

・『福音』勉強の前のマントラを唱える

(サンスクリット語)

Tava Kathāmṛtaṁ tapta jīvanam
Kavibhīṛitaṁ Kalmaṣāpahaṁ
Śravaṇa mangalaṁ Śrīmadātataṁ
Bhuvi gṛṇantiye bhūrida janāh

(読み)

タヴァカタームリタム タプタジーヴァナム
コヴィビリーディタム カルマシャーパハム
シュラヴァナマンガラム シュリーマダータタム
ブヴィグルナントウイエ ブーリダージャーナーハ

・前回からのつづき

(3) マントラの内容 (*前回説明がなかった内容だけを載せます)

① タヴァカタームリタ

- ・タヴァ「あなたの」
- ・カター「教え、話、会話、言葉」
- ・アームリタム「甘露 (不死の飲み物)」「不死」

意味は、「神様 (ここではシュリー・ラーマクリシュナのことです)、あなたの話、あなたの教え、あなたの会話は、とてもとてもすばらしい甘露 (不死の飲み物) です」。

ところで、言葉・教え・会話と、不死には、何の関係がありますか？
それは、言葉・教え・会話によって無知がなくなる、すなわち、体と同一している無知の状態から「私は魂」という知識の状態になる、ということです。

そのような状態にみちびく言葉は、我々と同じふつうの言葉ではない。

我々の話のほとんどは一時的で世俗的。その話の99%は無駄、時々100%が無駄です (笑い)。

しかし聖者の話の対象は100%真理。

同じ言葉でもテーマが違う。

我々の言葉はふつうの言葉。

聖者の言葉は真理。

我々ももし、100%真理について話したら聖者になります。

考えてください。識別してください。我々が真理について話すのはどれくらいでしょうか？
協会での食事の時を想像してみてください。もし私が神様について話さなければ、信者の会話はどのようなものでしょうか？ 個人的なことを言っているのではありません、それ (話の対象が一時的ということ) はふつうの人の傾向 (tendency) ですから。

『福音』の中に、ときどき世俗的な話、ジョーク、物まねがありますね。それは、真理のことばかり話しても信者の頭の中に入らないからです。ふつうの人の興味の傾向は一時的なものに向いていますから。だから、ちょっとジョークを言って、少し物まねして、それにみな大笑いして心がフリーに、頭がフリーになったら再び真理について話し始める。

『バガヴァッド・ギーター』の中にジョークはひとつもないでしょう？（笑い）一時間、二時間と『バガヴァッド・ギーター』を勉強すると、ちょっと疲れた、ちょっと難しい・・・。

しかし『福音』はそのようなことはありません。真理についての話ですが、読み続けてもとても面白い。

『福音』の中のジョークはそれが目的。シュリー・ラーマクリシュナは言っています、「私は時々ノンベジのアイテムもあげるのです。みなさんはいつもベジタリアンの食事をしていまからず。ベジタリアンアイテムばかりではあまり味気がないですから」と。

しかし話の中心は神。中心は真理。それ以外についての話やジョークも、信者がもっと真理を理解するためのもの。これがシュリー・ラーマクリシュナの教えのやり方です。『福音』の中で話されるさまざまな物語もそれが目的です。

多用される物語や賛歌には、もうひとつ理由があります。

無知にはさまざまありますが、最大の無知は「私は体です」。知識はその反対、「私は身体ではない」「私は魂です」「内なる自己です」。

ですが我々は、一度それを聞いてもまったく理解できない、すぐ体意識に戻ってしまう。だから何回も何回も聞く必要があるのです。我々は、「あなたはブラフマンです」「あなたは体ではない」「あなたはアートマンです」と、何回も何回も聞かなければ、その印象が残らない。ですからシュリー・ラーマクリシュナは真理を物語にして、例にして、賛歌にして伝えるのです。そしてそれらのテーマはただひとつ。「あなたは体ではない。あなたはアートマンです」、それです。

その言葉を聞いて、やがて理解に至れば不死となる。それで「カタ アームリタ」です。霊的なレベルでの不死。肉体意識がなくなり、魂意識があらわれるということ。

② タプタジーヴァナム

- ・タプタ「とても熱があつい。高熱で焼かれるような」
- ・ジーヴァナム「人生、命、生活」

しかしすぐに不死には至れません。その前に問題を解決しないとイケない。

今の問題は？ 何の関係での問題？

「困った」の3つの源は、

- ①自然災害（仕方ない）
- ②人的災害（時々避けることはできない）
- ③自業自得（笑い）。あとになって神様に文句を言うが、本当は自分で作った自分の責任の問題）です。

ですがそれらはすべて大変なことです。

「タプタジーヴァナム」（人生はとても熱い）はそれを比喻した言葉です。

病気のとき熱が出るのと同様に、たくさんの困り事があって、大変で痛いとも心も発熱する。

しかし、シュリー・ラーマクリシュナの言葉を勉強すればそれが治る。

夏のシャワーの様に、心がしずまり、冷静になります。

本当にそうです。『福音』はたくさんの問題にヒントを与えてくれます。

それも実践的なヒントばかり。執着や人間関係の問題、家族が亡くなったときの困難・・・。

年をとった信者（マニ・マリック）が息子を亡くし、とても悲しがつて、火葬場からまっすぐシュリー・ラーマクリシュナの所に来ました。この類の悲しみは、ふつうは取り除くことはできないでしょう？ しかし、シュリー・ラーマクリシュナのところに行けば、助言をもらい、歌をきけた。それだけではなく、シュリー・ラーマクリシュナ的人格によって良い影響をもらえました。シュリー・ラーマクリシュナは悲しみや痛みを取り除くだけでなく、自分の霊的な人格の影響をも与えたのです。『福音』と『ホーリー・マザーの生涯』にこの話があります。

③ コヴィビリーディタム

- ・コヴィ「賢い人」（字義は「詩人」「詩 poet）」
- ・イーディタム「ほめる」

なぜ、わざわざ“聖者たち・賢い人たちが”ほめると言っているのでしょうか？

ふつうの人がほめるのは、面白い映画、美しい音楽などで、真理のことはほめません。

ふつうの人のレベルでは真理はわからないのです。

「ダイヤモンドの価値は宝石商だけわかる」という話が『福音』にありましたね（☞『福音』 p810）。

また、信者たちと共に舟でドッキネッショルにやってきた、ある世俗的な人の話もありました。その人は、ドッキネッショルはおもしろそうなところだと思ってやってきましたが、シュリー・ラーマクリシュナの話を知者たちと一緒に聞いても、まったくおもしろくない（笑い）。イライラして友人に、「いつ帰る？ いつ帰る？」とたずねていました（笑い）。ついには、「舟で待っていますから」と友人に告げて退席しました。

聖者たちだけがわかります、『福音』がどれほどおもしろいか、どれほど深淵か。

そして、彼らは素晴らしい、素晴らしいとほめています。

『福音』は28年くらい前に出版されました。協会にはときどき電話がきます。ふつうの人からですけれども、「この種類の本を探していた、とても素晴らしい本だ」という内容です。そのようなかたにとって、世俗的な本はまったくおもしろくないです。しかし、考えてみて

ください、どのくらいの本が世間で売られていますか？ 協会の本のコピーはどれくらいですか？ それでわかります、『福音』が好きな人、真理のことが好きな人はとても少ないです。協会の本はどれも素晴らしい本でしょう？ しかしマザーズハウスにストックいっぱいでしょう？ しかし聖者たちはそれをほめています。

④ カルマシャーパハム

- ・カルマシャ 「罪」
- ・アパハム 「取り除く」

意味は「罪を取り除く」。

『バガヴァッド・ギーター』の中でも、アルジュナがクリシュナに質問していましたね (注：参照)、犯したくないのに、どうして我々は罪を犯すのでしょうか、と。

答えは、「無意識で、カルマの影響で、罪を犯します」。

罪とわかっているのに止めること、抵抗することができない。そしてあとになって後悔と悲しみにおそわれます、犯したくないのに犯しましたから。

それを世俗的なひとは何もかまいません。

しかし信者になると、神さまに祈ります、「清らかになりたい、だから罪を取り除いてください」と。

そのために『福音』を読めば、その結果、罪を取り除くことができます。

シュリー・ラーマクリシュナの言葉を聞いて、神様に祈って、純粹になり、神様にお任せすると、罪を取り除ける (そうしなければ取り除けない)。

「カルマシャーパハム (罪を取り除く)」の本当の意味は、シュリー・ラーマクリシュナの言葉を読んで、「罪を取り除いてください」と祈り、前の悪いサムスカーラを良いサムスカーラに変えて自分が良い傾向になると、取り除くことができる、ということです。

(注) 『バガヴァッド・ギーター』第3章36節

アルジュナが問います。『おお、ヴリシュニ族の子孫であるクリシュナ様！人は自分の意思に反し、つい罪深い行動をとってしまうことがあります、これはいったい何の力によるものなのでしょうか？』と。

(『福音』勉強会第20回、以上)